



令和4年10月11日

第22号

希望が丘

仲間づくり

先週、1年生の五色台学習へ行ってきました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため（大部屋での就寝、大浴場での入浴を避けるため）、宿泊は行わず、日帰りを2日行い、2クラスずつ入れ替えながら活動を行いました。学校では学べない様々なことを学ぶことができました、貴重な時間だったと思います。

出発式では、私語の多さに指導をしましたが、五色台へ行ってからは、どの生徒も一生懸命頑張ってくれました。課題もありましたが、「この子には、こんな素晴らしい面があるんだ！」というように、学校では見られない長所を発見することができた生徒がたくさんいました。そういう意味では、私にとって、とても有意義な2日間でした。

ところで、このような行事の中で大切なことは、いかに友だちと協力できるかということです。今日は、「仲間づくり」ということについて、少し違った観点からお話します。

ハーバード大学人類進化生物学ジョセフ・ヘンリック教授は、自身の著書（「文化がヒトを進化させた一人類の繁栄と文化—遺伝子革命—」著者：ジョセフ・ヘンリック、翻訳：今西康子）において、次のようなことを述べています。

- ヒトが他の動物とは全く違う存在となっているのは、個体それぞれの頭脳が優れていて、創造性や発明に長けているからではない。たくさんの脳が集まってできた「集団脳」（集団的知性）を使って、時を超え文化を積み上げてきた（集団の中で蓄積してきた知恵や技術をシェアし、文化として受け継いできた）おかげなのだ。
- 集団脳が発達するには、1つの個体が学習するだけではダメで、それが集団の他の個体へ、さらには次の世代へと伝えられなければならない。そのため私たちヒトは、他者から学び、集団で生活し、文化を蓄積していくために様々な行動がプログラムされている。
- 集団脳に影響を与える要素が2つある。1つは集団の大きさ、もう1つは集団内での社会的つながりである。集団が小さいと、集められる知恵や文化の幅も小さくなる。集団内でのつながりが弱いと、どんなに素晴らしい技術が生まれても、共有も蓄積もされない。規模が大きく、相互のやりとりがうまく行われる集団ほど、集団脳が大きく、より高度な技術やノウハウを生み出すことができる。

確かに私たちは、一人では思いつくアイデアに限りがあり、何か新しいものを生み出すことも難しいかもしれませんが、多くの人と関わることで、知識や技術を伝え合い、よりよい考えを生み出し、よりよく生きていく知恵を身に付けていくことができるのではないかと思います。

そうだとすれば、集団の中でコミュニケーション力が、とても重要になります。

- 自分がやりたいことと集団（班や学級）のためにすべきことをどう考えるか。
- 意見が違う友だちとどのように力を合わせるか。
- お互いの長所・短所をどのように組み合わせ、全体としてよりよくなる方向へ進むか。そのために、お互いがどのようにカバーし合うか。
- 今、自分がすべきことは何か。

これらを一言でまとめると、「仲間づくり」ということが言えると思います。一人一人がこれらのことを考えて友だちとともに生活する中で、判断力、思いやり、調整力、計画性、先見性（先を見通す力）、自主性、自律性（自分で自分をコントロールできる力）などを養うことができると思います。そして、友だちと関わることによって、友だちから学び、友だちに伝え、より多くの知恵や知識を蓄積していくことができますと考えます。

「これって、どうやったらいいの?」「分からないから教えて。」「この方法だとどうまくできるよ。」・・・こんな言葉が日常生活の様々な場面でごく自然に飛び交うことで、一人一人の力は小さくても、友だち・保護者の方・地域の方との関わりから、多くのよりよい知恵や知識を学び、皆さん一人一人が成長し、よりよい三豊中学校を築いてくれることを願っています。